

中野区教育委員会会議録 平成22年第2回定例会

○開会日 平成22年1月15日（金曜日）

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前10時00分

○閉 会 午前10時45分

○出席委員（5名）

中野区教育委員会委員長	大 島 やよい
中野区教育委員会委員長職務代理	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会委員	山 田 正 興
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○欠席委員（0名）

○出席した事務局職員（6名）

教育委員会事務局次長	教育長事務取扱
参事（教育経営担当）	合 川 昭
副参事（学校再編担当）	吉 村 恒 治
副参事（学校教育担当）	寺 嶋 誠一郎
指導室長	喜 名 朝 博
副参事（生涯学習担当）	飯 塚 太 郎
中央図書館長（統括）	小谷松 弘 市

○担当書記

教育経営分野	落 合 麻理子
教育経営分野	上 田 仁

○会議録署名委員

委員長

大 島 やよい

教育長

田 辺 裕 子

○傍聴者数 4人

[議決案件]

日程第1 第1号議案 平成22年度使用教科用図書の採択について

[報告事項]

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

- ・ 1 / 1 1 中野区成人のつどいについて
- ・ 1 / 1 3 中学生東京駅伝中野区結団式について
- ・ 1 / 1 4 東京都学校医会について
- ・ 1 / 1 4 緑野中学校セーフティ教室について

(2) 事務局報告事項

①その他

○東京都教育委員会の土曜日の授業実施に関する報道について（指導室長）

中野区 教育委員会
第2回定例会
(平成22年1月15日)

午前10時00分開会

大島委員長

おはようございます。

ただいまから教育委員会第2回定例会を開会いたします。

本日の出席状況は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、教育長にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

それでは、日程に入ります。

<日程第1>

大島委員長

日程第1、第1号議案「平成22年度使用教科用図書の採択について」を上程いたします。

議案の説明をお願いいたします。

どうぞ。

指導室長

それでは議案の第1でございますけれども、平成22年度に特別支援学級で使用いたします学校教育法附則第9条の規定によります一般図書の採択についてお願いをするものでございます。ここにごございます裏面にごございますが「こどもきせつのぎょうじ絵じてん」を今増補新装版となっておりますが、前回、8月の採択では増補新装版ではなく通常の形のものが出ておりました。それが今回、この増補新装版というものが供給されることになりましたので、この採択をお願いするというものでございます。

これにつきましては、特に大きく変わったところというのは、里山の暮らしの章をつけたということでございまして、都会での季節の行事、一般的な季節行事も入っているんですが、さらに里山の暮らしという章を加えたというのが変更点でございます。残念ながら現物をお見せできませんが、そのような内容でこの採択をお願いするものでございます。

どうぞよろしくをお願いいたします。

大島委員長

では、ただいま上程中の議案につきまして、質疑がありましたらお願いいたします。

飛鳥馬委員。

飛鳥馬委員

この社会科の教科書だけのことではないんですけれども、特別支援学級でいろいろな教

科書を採用しているんですけれども、児童・生徒が使うときに、かなり能力の幅は広いと思うんですけれども、例えば社会科のこれを採用すると、なかなか指導者も把握しにくいと思うんですけれども、どれぐらい活用されているとかできるのか、あるいはこれよりも上とか下とかってそういうのはどうなっているのか、ちょっとわかる範囲で教えてくださいと思います。

大島委員長

どうぞ。

指導室長

この特別支援学級で使います教科書につきましては、そのお子さんに合ったものということで、各担任が選定をしておりますので、一律にこれをみんなで使うということではございませんので、そのお子さんの状況を想定しながら、これならばいいだろうということで選んでいただいていますので、8月の採択のときにお見せしたような一般図書ということになります。

8月のときにもお話をいたしました、文部科学省が著作権を持っている星本と言われる本を使っているところもございますが、こういうほうが特別支援のお子さんについては使いやすいだろうということで選定をしているところでございます。

大島委員長

ほかにございますでしょうか。

では私から、きょう上程されているこの本は、例えば科目的に言うと、何の科目でというのを想定しているのでしょうか。

どうぞ。

指導室長

種目ということで社会科ということになりますけれども、特別支援学級の教育課程はあわせた形で指導しているところもありますので、一応種目は決まっておりますが、種目としては社会科ということになります。

大島委員長

わかりました。

ほかにございますでしょうか。

ほかにないようでしたら質疑を終結いたします。

それでは、挙手の方法により採決を行いたいと思います。

ただいま上程中の第1号議案を原案どおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(全員賛成)

大島委員長

それでは全員賛成ですので、原案のとおり決定いたします。

以上で、議決案件の審査は終了しました。

<委員長、委員、教育長報告事項>

大島委員長

次に、報告事項に移ります。

初めに、委員長、委員、教育長報告です。

では私からですけれども、今週は1月11日の祝日ですけれども、中野区成人の集いというのがサンプラザホールで行われまして、例年教育委員会の委員長が出席するということになっていまして、ことし私が出席してまいりました。1,500人以上の方がサンプラザに集まっていたようで、大変華やかな雰囲気でも盛り上がりおりました。

ただ、その内容につきましては、役所のほうで決めるということではなくて、実行委員会という若者たちでつくられる委員会があって、そこで内容を決めるので、大変盛りだくさんでイベントといいますかアトラクションを中心の内容になっていまして、まず初めに中野ミシュランの中野の逸品グランプリの候補作品が写真も添えて上映されまして、その説明から始まって、次にオープニングパフォーマンスということでストリートダンスのようなダンスがありまして、チアリーディングを大妻中野の中学・高等学校の生徒さんが次にやってくれるというのの間に、式典が挟まったというような形になっていまして、式典は脇役的な感じのものでしたけれども。区長さんと中野区議会の議長さんと、それから教育委員長と選挙管理委員会の委員長さんと4人が壇上に出ましてお辞儀などして、一人一人紹介の後で祝辞としては中野区長さんと議会の議長さんのお2人が祝辞を述べられたんですけれども、野次とかそういう妨害行為みたいなそういうのは全くありませんで、ただ私語といいますか勝手なおしゃべりをしている人たちが結構多かったので、ちょっとうるさいなというような感じはしたんですけれども、でも区長さんのごあいさつも成人でない私が聞いていても大変心にしみるいいごあいさつで、要するにバブルはじけた後、日本が苦しい時代に皆さん育ってきたんですし、これからは未来が約束されているという終身雇用制とかそういうものも崩壊したし、そういう意味で身分が安定されて保障されている

というような時代ではないということで、それだけに自分を常に磨いていくというような姿勢が大切だと。それから継続は力なりという言葉も、詩の中の一節だったらいいんですけども、その詩とともにご紹介されて、そういうことでずっといつも自分を磨くように努力して、皆さんこれからの将来頑張ってくださいというようなことで、大変いいごあいさつだったんですけども、ちょっとうるさい人もいたんですが、でも大部分の人は非常に神妙に聞いてもらっているという感じで、まじめな感じもすごく感じられまして、中野の若者は結構まじめだなというふうな印象、大変いい印象を持ちました。

そんなわけで、あとチアリーディングとかいろいろビデオメッセージとかというような、あとサプライズイベントということで175Rというバンドの方が演奏することになっていたそうで、若者には大変有名なバンドということで、そういう楽しい内容の成人式でございました。

私からは以上です。

飛鳥馬委員お願いいたします。

飛鳥馬委員

特にありません。

大島委員長

では高木委員、お願いいたします。

高木委員

今週は特にございません。

大島委員長

では山田委員、お願いいたします。

山田委員

昨日、東京都医師会の学校医会がありましたので出席をいたしました。

その中で、昨年の秋からの新型インフルエンザのいろいろな騒動があったわけですが、1つ話題に上りましたのは、いわゆるはしかの予防接種のことです。

実は、3年前にはしかが随分学校ではやりまして、大学など休校したのはついこの間だったんですけども、その後、国のほうでは麻疹排除、エリミネーションということで5年間の間に中学1年生並びに高校3年生に麻疹と風疹の混合ワクチン、MRのワクチンを無償で打つということを決めて、5年間の間で麻疹を排除しようということをやっている

さなかであるんですけども、実際にMRの3期という中学校1年生相当で打つ接種率は、平成19年のデータしか僕持っていないんですが、全国平均85.1%。しかしながら東京都は75.8%。なんと大阪に次いで下から2番目なんですね。それから第4期、高校3年生相当に打つ接種率はもっと悪くて、東京都は断然最下位です。61%にすぎない。

こういうことを受けて、東京都の麻疹排除計画の委員会のほうで11月に、各中学校に保護者あてにアンケート調査をしたと。アンケート調査をしたということは、MRのワクチン接種お済みですかというアンケートなので、なんとか啓発しようということではないかなと思ひまして、それが集計されて1月29日の委員会で報告をされ、次のステップに進むということではあるんですけども、実際にはしかは今でも日本では命を落とす感染症の最たるものなんです。恥ずかしい話ですけども、アメリカなどでは麻疹の輸出国ということで日本はかなり名指しで批判されているんですね。

今はしかは1歳から2歳の間で打つ1期という接種がありますけれども、これはかなり啓発が進んでおりまして、94%近くの接種率なんですけれども、実は学校に入る前に打つ就学前の接種、第2期というのがあるんですけども、これはまだ92%ぐらいにすぎないんですね。WHOが定めている麻疹エリミネーションというのは、予防接種の接種率は95%以上というのが一つの条件ですし、一方では人口100万人当たり麻疹の発生が1例以下にするということです。輸入量は除くということになっていますけれども、実際に日本では平成19年だったと思うんですけども、人口10万人当たり86例ぐらいの発症率を見ているんですね。だからまだまだはしかというのは日本ではエリミネーションに遠い疾患ということがあるので、ぜひ学校保健のこと、また感染症予防というのは大きな学校生活、健康な子どもたちが集う学校ですので、ぜひこの3月31日までは中学校1年生相当のMR接種は無料で医療機関で行いますので、ぜひ啓発に努めて、少なくとも90%を超えるような接種率にしていきたいなということが話し合われました。

私からは以上です。

大島委員長

では教育長、お願いいたします。

教育長

1月11日の日、大島委員長が出席された成人の集いに私も招待がありましたので、観客のほうに座って出席をさせていただきました。去年まで、実は主催者側の立場でおりまして、ちょっと出席者がざわざわするとはらはらどきどきしていたんですけども、そうい

う招待の側に立ちますと、わざわざもほほ笑ましいといえますか、ちょっと心の余裕を持って参加することができました。

中野の子どもたち1学年当たり大体2,000人が中野のおおむねの平均なんですけれども、小・中学生は。成人は、ことしは2,544人ということで、大体2,500人前後毎年成人を迎えますということは、やはり中野の町は若者の町といえますか、地方から東京に出てこられる方々も多いのではないかとというようなことが数字でも読み取れます。また、昨年も実行委員、先ほど大島委員長からご紹介がありましたように、実行委員会形式でやっているんですけれども、昨年も中国の方が2人と韓国の方がお1人実行委員会で入っていらしたんですが、ことしもやはり中国お1人、韓国お1人ということで、若者の町と同時に国際的にも若い方が集中するような傾向があるのかなというようなことで、私としては観客側に立って楽しませていただいた1日でした。

1月13日水曜日ですけれども、実は3月21日の日に初めて第1回なんですけれども、中学生東京駅伝というのが開催されます。その結団式が1月23日に午後4時から行われました。これは区立の中学生だけではなくて、中野区にあります国立、私立の中学生にも声をかけまして、男子が18名、女子が22名ということで大勢参加をしてくれることになりました。ですので選手42名と、それから十中の原校長が総監督になりまして、あわせて役員8名の50名で結団式を行いました。これに関しましては、自治体ごとに参加をするということで、東京都の中にあります51自治体のお子さんが駅伝で競うということになりますので、たすきを渡すときに相当混乱もないようにということで、今週の土曜日から6回の練習と1回の試走会ということで相当密度濃い練習をして、ただ参加するのではなくて、練習を通じて子どもたち同士も交流をし、仲間づくりもできるのではないかとということで、大いに期待しております。もしお時間がありましたら、晴海ですけれどもお出かけいただけましたらというふうに思っています。

また区長からも、また私たちからもごあいさつをさせていただきましたけれども、中野という看板を背負って行っていただくということでは、子どもたちにもいい機会になるのではないかなというふうに期待をしています。

それからちょっと長くなって恐縮です。

最後に、昨日1月14日午後ですけれども、緑野中学校でセーフティ教室がありましたので、今までは子ども家庭部におりましたときもセーフティ教室についてはちょっと関心がありましたので、どんな形で行うのかということで視察をさせていただきました。

大変盛りだくさんの内容でして、最初に教員の2人が不審者になって、不審者侵入訓練というのを行い、その後体育館に子どもたちは場所を移して、KDDIの社員の方が携帯の安全教室、それから野方警察の方々から薬物乱用防止と、犯罪の防止ということで、少年犯罪の現状と注意ということで2時間近いセーフティ教室だったんですけども。子どもたちはとても落ちついて関心を持って聞いていたのでとても感心をしました。また、不審者訓練では、教室に先生方が不審者になって侵入をするということで、かなり迫真の訓練で、ほかの先生方が、教員の方が刺又で犯人をやっつけたりというようなことがありましたけれども、先生たちが子どもたちに教室に入ってなさいとか、子どもたちを守るということを、とても真剣に訓練されていたので、教員の訓練にもなるんでしょうけれども、そういうことを目のあたりに見て、教育上の指導だけではなくて、子どもたちの命を守るというようなこともきちんと訓練をしているんだなということが感じ取れていい経験をさせていただきました

私からは以上です。

大島委員長

では、ただいまの委員それぞれからの報告につきましての質問、ご発言ありますでしょうか。

どうぞ、山田委員。

山田委員

成人の日の集いのことですがけれども、私はちょうど成人したときは地方の岡山県倉敷市に大学の関係で移転していたので、自治体によってその年に二十になる人と二十を迎えたときの人ということで通知が来るか来ないか。私は両方とも該当しなかったので来なかったんです。ですから式典には出なかったんですが、大学の寮にみんな一緒にいたものから、何人かはその倉敷市の式典に出たんですけども、結構立派な「祝成人倉敷市」というのがもらえていたんですね。それはうらやましく思えたんですけども、実は中野区の成人のときに、そういった何かお祝いするような正式な記念品が多分出ていないんじゃないかな。

実は今年は私の長男が成人して式に行ったんですけども何も無いと言っていました。長男は小・中学校が国立のほうに出してしまったので、幼稚園まで中野区内にいたんですけども、ですから16年ぶりに友達と電話し合って、じゃ行ってみようかと言って行ったんですけども、できれば中野区で成人を迎えたという記念に、お金があるんじゃないかと、

やはりそういった気持ちがあるんじゃないかなと思ひまして、私は出れなかったので出れただけよかったねと言って少しなだめましたけれども、そういったことがありました。

それから教育長にちょっとお尋ねしたいんですけれども、駅伝は何kmぐらいの、一人一人どのぐらいの区間を走るんでしょうか。

あともう一つ指導室のほうで、今中学校で基本的に長距離というと何kmぐらいを一つの基準として走っているのか、それを教えていただきたいです。

指導室長

中学校の体育でやるのは1,500です。これは体力テストとかスポーツテストの関係でやるぐらいですので、長く走るということは余りやっていないというのがございます。

大島委員長

よろしいですか。

教育長どうぞ。

教育長

駅伝についてですけれども、男子の部が42.195kmで、3kmを走るお子さんが8人、2kmを走るお子さんが8人、2.195kmを走るお子さんが1人ということです。それから女子の部は30kmで、2.5km走るお子さんが6人、1.5kmが10人ということです。

山田委員

ということになると、1,500と3kmでは倍ですよ。私が中学のときにたしか走っていたのは3kmで、それが区の競技会の一つの目安であったし、その当時は東京都の放送陸上というのがあって、それもたしか3kmで争ったと思うんですね。といということになると、今の中学生1,500の記録会に出ているのを目標にしている方が3kmというのはかなりしんどいと思うんですね。ですから急に駅伝といって走るのは今の子どもたち大丈夫かなんということはあるんではけれども、東京都で1つ始めた事業ですから、何とか中野区を背負ってというよりは途中できちんとたすきがつながることを1つの目標に元気で安全にといいますか走ってもらいたいなと思います。

大島委員長

では学校教育担当、どうぞ。

副参事（学校教育担当）

その点は健康面もありますので、私立、国立もいらっしゃるの、そういったような健康の、その子に対する健康の情報は出してもらって、それについて役員の中にも養護教諭

がおりますし、健康面も十分留意しながら、五、六回でしたか練習会も積んで、当日もそれで対応していきたいというふうに考えています。

大島委員長

ではどうぞ、飛鳥馬委員。

飛鳥馬委員

現状で申し上げますと、各中学校は駅伝大会やっているんですよ。学校でやっているのもあるけれども、それから中体連、中野区はわからないけれども東京都全体で陸上部があるところは、これは高校駅伝と同じですよ。学校単位で出るわけです。都大会までやっていますから、全国はないと思うんですけども、かなり盛んにやっているところがあります。中野はやっていないだけかもしれない、ないとすれば。でもかなりの区でやっています。それで山田委員が言われるように、それも大体3kmが限度です。区間によってちょっと距離がありますけれども、それで中野区はやっていないとすると、やっている区はそれで記録が出ますから、やはりそこから選ばれてくるので、予選会なんてやらなくてももう学校でタイムで出てきちゃいますから、大体1,500なら1,500、3,000は3,000、記録で選ばれると思うんですけども、中野がそうでないとすると、東京都でやっているその駅伝大会というのはどういう趣旨がちょっとわからないんですが、例えば国立から1人絶対に出しなさいとか、私立で何人か出しなさいという縛りがあるのかどうか、純然たるタイムなのか、その辺が非常に微妙なところなんですよね。でないと教育長が言われるように、交流深めなんて言ってもタイムだけで競うというふうになってくるので、その辺のところはちょっと細かいこと私もわからないけれども、でもタイムになるだろうと思うんですけどもね。ですから、実際にやるとするとちょっと大変だとは思いますが。人数ぴったりに選ぶわけにはいかないの、何かあった場合の補欠も選ばないといけないし、練習にもちゃんとついて行ってやってという、どこで練習するか場所もいろいろあるので難しいことだと思うんですけども、どうでしょうか。やっている区とやっていない区ではかなり差があるということですね。

山田委員

という飛鳥馬委員の意見を受けて、中野区では各中学校で駅伝というのをやっているのかどうか、それから中学校の総合体育大会のところでは長距離としては何kmを走っているのか、その辺はいかがですか。

大島委員長

どうぞ。

指導室長

駅伝大会ということでは、マラソン大会のような形ではやっているところがあります。あと隣の杉並は区を挙げてマラソン大会みたいなことをやっておりますけれども、区としてはやっていないのと、あとは国立の競技場でやるのもその駅伝という形はございませんので、種目としては1,500というのがやはりどうしても、中体連の記録をとるのはその形になります。

大島委員長

どうぞ、山田委員。

山田委員

妙正寺川沿いでやっている中野区民マラソン大会に、医師会としてはドクターを派遣しろと言われて何回か出たことがあるんですけども、朝出席者の方たちには簡単なメディカルチェックをするんですね。その後、5km、10kmというのがあったので、5km、10kmに伴走していくグループと本部に残ると、3人のドクターが派遣されていたんですけども、苦い経験がありまして、メディカルチェックは終わったんですが、5kmの途中で通報がありまして、あのころまだ携帯電話ない時期ですけども、けいれんしているという電話だったんですね。慌てて伴走者と本部と行ったんですけども、単純に足がけいれんしていると思ったら全身けいれんなんですよ。慌てて蘇生しまして、救急車に乗せて事なきをえたのを覚えているんですね。

ですから、やはりこういった初めての経験をする子どもたちのやはり健康面というのは非常に、中学生だからといっても、中学生も高校生が多いんですけども、心臓の突然死なんかあるわけなので、その辺も十分気をつけて、子どもたちが元気でゴールを迎えるようにしていただきたいというのが願いです。

大島委員長

どうぞ。

飛鳥馬委員

今の山田委員の話で本当にそのとおりなんですけれども、私も体育専門じゃないからあれですけども、いろいろ聞いた話等によれば、駅伝とかマラソンというのはやはり練習なんですよ。100じゃないんですよ、100は天性のバネなんですよ、多分。だからもちろん100も練習すれば速くなるけれども、だけれども長距離は練習しなかったら絶対だ

めなんですね。だからこの五、六回やるだけではちょっと無理なのかもしれない。そういうのもかかわってくるので、各学校体育の先生いるから、専門的に知っているのでもやると思いますが、かなりやはり慎重に練習していかないと大変だと思うんですね。やっているところは毎朝練習をやっているんです。放課後も。水泳と同じですよ。朝来たら早朝練習1,000mとか。午後は1,500とかそういうのを繰り返して何日も続けてやっていますからという事で、慎重にやるということだと思いますけれども。

大島委員長

どうぞ、高木委員。

高木委員

素朴な質問なんです、合同練習ということでお聞きしたんですが、どこでやるんですか。全体の東京駅伝のテストランというのは多分そこでやると思うんですけども、やはり中野区はどこの学校も余りグラウンド広いところがないと思うので、教育長がセーフティ教室に行かれた緑野なんかは広いですけども、それでもトラックは多分200取れるか取れないかなので、運動部なんかは緑野と丸山の周りが住宅街で余り車がないのでぐるぐる回っていますけれども、ほかの学校でできるかという意外と幹線道路にすぐ面したりするので、今後盛り上がってやろうとしても、まず区全体としてどこでやるような場所があるのかなのかということをお聞きしたいのが1点と、あと各学校でそういう取り組みが今後可能なのか、ちょっと素朴な疑問でお聞きしたいんですが。

指導室長

最初の点ですけども、今回は国立、私立、公立、全部ということで、東大附属のご好意で全6回、すべて土曜日だと思いますけれども、東大附属でやらせていただくと。試走会というのもありまして2月14日でしたか、これは晴海で一遍回ってみるということ、本番と同じ状況で回ってみるというようなことです。

後半は継続可能かと。陸上部というのは恐らく中学校の半分ぐらいしかないんですよ。ですから、なかなかそれなりにすぐできるみたいな感じではないんじゃないかなと思います。

大島委員長

私からの質問です。今の駅伝大会は東京都が主催ということでよろしいんですか。

指導室長

そのとおりです。

大島委員長

わかりました。

では中野の教育委員会が責任を持つとかってそういう立場では別にないんでしょうけれども、今のお話伺っていて、ふだん仮に陸上の練習をしているとしても3kmとかって長い距離になって経験が不足で当日けいれんということはともかくとして、何か予測していない体調不良とかってなるという可能性もなきにしもあらずなので、ちょっとその辺の心配もあるので、山田委員も言われたように、主催者とか先生方でいろいろ気をつけていただいているんでしょうけれども、くれぐれも皆さん無事でゴールするよというのを願うということですかね。

ほかにご質問、ご発言ありませんでしょうか。

<事務局報告事項>

大島委員長

ではないようでしたら、事務局報告に移りますけれども、事務局報告はございますか。

どうぞ、指導室長。

指導室長

昨日のテレビ報道、または本日に新聞報道等もございましたが、東京都教育委員会は土曜日の授業を月2回まで認めるというような話が出ております。実は正式文書についてはまだ届いておりませんので、現時点ではホームページ等にも出ておまして、この件について実は室課長会でも事前の話はなく、事前秘ということで動いていたようでございまして、昨日一気にこの話が出てまいりました。ただ背景としましては、既に多くの学校が土曜日に、いわゆる旧課程に位置づけられた授業をしていると。これは土曜日に授業をしても月曜日に振り替え休日をとらないと、お休みにしないというような形で、こういうことで授業時数を確保していくという必要もあって、そんなところが多いという状況がございます。

それへの対応として都教委がこのような方針を示したということでもありますけれども、基本的な考え方としては学校5日制の趣旨は守っていきますと。ただ、保護者とか地域住民に開かれた学校づくりを進めるという観点でこういうことをやっていきたいと思います。したがって、ただ土曜日に授業をするということではなくて、土曜日の授業をやればそれを公開していく。地域や保護者の方にも見ていただく。それから道徳授業地区公開講座ですとか、先ほど教育長のお話にあったセーフティ教室などを土曜日にやって、地域の方

にも来ていただくと、そんな形にしていく。または保護者とか地域の方をゲストティーチャーにお招きしていろいろな授業を工夫するということがございますが、そういう意味でも土曜日のほうがそういうことはやりやすいだろうということで、こういうことをやっていきたいと思います。

月2回を上限とするということがございます。その基準の意味がよくまだ知らされておられませんけれども、ただ余りこれやっていくと学校5日制の趣旨が崩れてしまうということもあって、上限というのを定められたというふうに思っておりますけれども、区としてはこの趣旨も学校の主体性にとということで、一律で土曜日は2回授業するよというふうなことでなく、それぞれの学校の教育課程の工夫でというふうに思っております。

既に小学校も中学校も幾つかの学校でこういう形で土曜日に授業をしても月曜日にお休みにしないですとか、また今回のインフルエンザの対応でそんなところもふえておりますので、そのことはまた教育課程説明会の中でもお伝えしていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

大島委員長

では今の件につきまして、ご発言ありますでしょうか。

どうぞ、飛鳥馬委員。

飛鳥馬委員

私もきのうテレビ見てびっくりしたわけですが、今室長さんから説明があったのですが、もうちょっと資料不足とか説明不足というんでしょうか、都教委が。というのは、学習指導要領というのは文科省が決めて、各教科ごとに何時間という時間が決まっているわけですね。1週間35時間、1時間単位にして国語なら3時間とか算数なら4時間とか、それでちゃんと終わるようにつくっているんだと思うんですね、理屈から言えば。そうでないと計画が成り立たないわけですね、週5日制にしても何しても。だからそれでやってきてできないから、足りないからという都教委の考えであるならば、大体何時間あったら足りるのかというそういう今室長が言ったようにはっきりしない、1日か2日かはっきりしない。そういうところが非常に問題なんですね。ただ、何かちょっとわからないけれども2回ぐらいいいだろうという感じに受けとれる。そうじゃなくてももう少しきちっと、これだけあればできますよということまでやらないと、なかなか説得力がないんだと思うんですね。この教育の仕事というのは時間があればあるほどやは

り丁寧にやれる。次の難しいことにいける、こういうところがあるわけですね。これでいいということないんですよ。もうこれだけあればたくさんだよということはないんだらうと思うんですよ、私は。だからそういう中でやっているの、そこは非常に難しいところではある、限られた時間ですから難しいことであるんですけども、やはり説得してやってもらう地域あるいは保護者、先生方もそうですけれども、これくらい足りないからこれくらいあったら何とかできるんじゃないですかというのがあるともうちょっとわかりやすいというところが1点。

それから今でも夏休み切り詰めたり、土曜日やったり、放課後ちょっと6時間、7時間やったりというのはあるけれども、それは授業なのか、あるいは補習なのか。ついていけない子とか大変な子がいるので補習でやって、補習なら認めるけれども、一斉授業はだめだということかどうか。今度の土曜日やるというのは、授業をやっていいということは一斉、全員だと思えるんですけども、補習ではないのかどうか。都教委の説明はついていられない子がいるとか、補充ができないとか、ドリルができないとかとそういうことも言っているんですけども、単なる補充であれば一斉にやる必要があるのかどうかとか、非常にわかりにくいんですよ。だから難しいことだらうと思うけれども、それでやるところとやらないところが出てくると、またこれ大変ですよ。

私たちこのところちょっと、中野区としてどうするかって非常に難しい判断に迫られていますよね。だから例えば小学校はやらないけれども中学校がやるなんて言ったときに、小学校はどうなっているのとか。中野区やらないって決めたら隣杉並やっているよ、どうするのとか。いろいろなものが出てくるんだよね。やるやらないだけで、話で。授業がどうのこうのじゃなくて、やるやらないだけで出てくるので、だからかなりしっかり考えて決めないといけないんだらうと思うんですよ。最初のころはちょっと疑問がありますということ。答えは難しいと思いますのであれですけども。

大島委員長

どうぞ、指導室長。

指導室長

確かに中学校は24年度から標準時数が1,015時間になりますので、それに対応するということになる、いわゆる今のやり方ではかなり厳しい。授業時数はご承知のように、標準時数は各教科、道徳、特別活動等ということですので、それ以外の活動が学校にはたくさんございますので、それを考えると平成24年度からは本当にぎりぎり、またはもう不

可能に近い状況になると、そういうことを考えると、こういうものを利用して授業時数を確保するという事は学力をきちっと保障していきましようということでもあります。

その学力保障という意味では、実は今でも本区の幾つかの中学校は土曜日に地域の方をお願いをして、いわゆる補習のような形をやっておりますけれども、一方で補習はどうしても全員参加できない、させられない。もっと言うと強制的に来させるわけにもいかないというようなところもあって、そんな背景もあって今回土曜日に授業となれば、当然出席を取るわけですので、そういうことも含めて可能になるだろうという都教委の判断があったようでございます。

小学校、中学校の校長会長さんには今朝ほど全部お話をお聞きいたしましたけれども、両者ともお話あったのは、区として何か統一的にということよりも、やはり学校の主体性でお願いをしたいと。中学校も今いろいろ工夫をしているところなので、それで対応できればというようなお話でした。

いろいろ問題が出てまいりますのは、飛鳥馬委員がおっしゃるとおり、例えば部活動の練習試合どうするのかとか、こっちでは授業やっているけれどもこっちでは、それも実は今でも土曜公開とかそういうことがありますので、そういう調整はしていかなければいけないだろうということもございます。

小学校は、ここまでしなくてもというか2学期制のこともありますので、さほどぎりぎりということではございませんけれども、そんな状況であります。

あともう一方で、教員の勤務については当然振り替えをしなければいけないという状況になりますので、そうすると夏季休業中に授業のないところに振り替えをとるという形になってまいりますので、今度また夏休みの活動等が制約をされるというようなことも出てまいります。

あと一方で、教員の勤務が7時間45分に来年度からなりますので、そうなったときに半休の取り方とか、その辺のこともまだ実はクリアできていないということがございます。

大島委員長

どうぞ、高木委員。

高木委員

私は教育委員会としては、今指導室長から説明があったように、各学校が創意工夫してやるのでいいのかなと思うんです。ただ保護者の立場で言うと、例えば今保護者の方、特にお母様方は携帯ですぐほかの学校も、例えば小学校では行事は同じでうちの学校はやっ

ているのよとばっと広まって、何でうちの学校はやっていないんですか、校長先生。みたいな話にやはりなっちゃうんですね。だからそこに関してやはりきちっとした説明を校長先生や教育委員会がしていかないと、やはり保護者の方が不安に思ってしまうというのがあるので。

あと一方で、各学校が土曜日何かやろうとすると、いろいろ無理があると思うんですよ。そこに対して、教育委員会としてやりたいという学校に関しては支援をする体制、例えば今余り活用されていませんが学校支援のボランティアに関しては、やはりいろいろなニーズがあり過ぎて、うまくなかなかまとまっていかない部分があると思うんですが、やはりそこで地域の方に来ていただく。例えば、そのときに何か屋外で活動をやったときに保険の問題とか、そういうのをこれを機会にもう一回整理をして、やりたいという学校はきちっと取り組めるようにして、また一方でたまに過度に土曜日にやるのも望ましくないと思いますので、そこら辺は各校長会の意見を聞きながら、少し全体的なところでセーブといいますか、そういったところも考えてやっていただきたいなど。多分、やはりもう22年度に関してはなかなか難しいのかなと思うんですね。例えば土曜日1日やるとなると給食1回ふやすのかとか、そういうさまつなこともあると思いますので、やはりもう発表して、これからだんだんまた情報も入ってくるので、スムーズに準備をお願いしたいと思うところがございます。

大島委員長

私の感想なんですけれども、昨日のニュースで見て、もしかすると多くの方がやはり学力低下、ゆとり教育ではだめなんだ、もっと学力を上げるためにもっと授業もしなさいというような国民の意見を受けて、何か新しい指導要領も学力重視のものになったその流れの延長で、東京都ももっと授業をやりなさいとそういうことから、今回の土曜日にも授業ということを東京都は発表したんじゃないかというふうに受け取られている方が結構多いんじゃないかなという印象を持つわけです。でも、今のご説明にもあったように、必ずしも単純に学力のために授業をふやしてというんじゃないということのようなんですけれども。どうも東京都の趣旨もちょっとよくわからないところがあって、それで土曜日にやるのは地域に公開してというのと、一般の授業というよりむしろ学校行事という位置づけでやりなさいみたいなニュアンスもあるし、ちょっとよくわからないんですが、しかし、とにかくやらなきゃいけないということじゃないということのようでして、だから各学校の判断でというようなことになると、今いろいろご意見が出たように、今後どういう反響が出てく

るか。だから中野区教育委員会として、では土曜日に何かやりなさいと一斉に指示したりするという問題でもないようですけれども、やはり私たちも今後、でもどうというのが望ましいのかというのは、もっと我々としても勉強して研究していかなければいけないし、各学校の先生方とも意見交換していかなければいけないかなというふうには思った、単なる雑感でございます。

それでは、本日の日程をすべて終了いたしました。

これをもちまして教育委員会第2回定例会を閉じます。

午前10時45分閉会